

ヌマガレイ

Platichys(Platichys) stellatus

カレイ科



ヌマガレイ。両目が左体側にある

名前の由来

沼に住むカレイの意。カレイの語源はカラ（韓国）のエイで、韓国沿岸に多いエイ型の魚の意か、エイより上等なエイ型の魚の意であろうという。また、魚の片側すなわち「かたわれ」の様だという意で、「たわ」が略されたとの説もある。別名：カワガレイ（北海道・東北）漢字名：沼鰈

特定種

該当なし。

形態的特徴

全長95cm（メスは5年で44cmになるという）。体高が高くひし形、口は小さい。両眼が左体側にある。

眼のある側の体色は暗黄緑色、眼のない側は白色である。ウロコは粗雑で、星状のこぶ状突起となって体表面に散在している。特に背ビレや尻ビレの基底に沿うものは隆起する。背ビレ、尾ビレ、尻ビレに黒い帯状の模様がある。



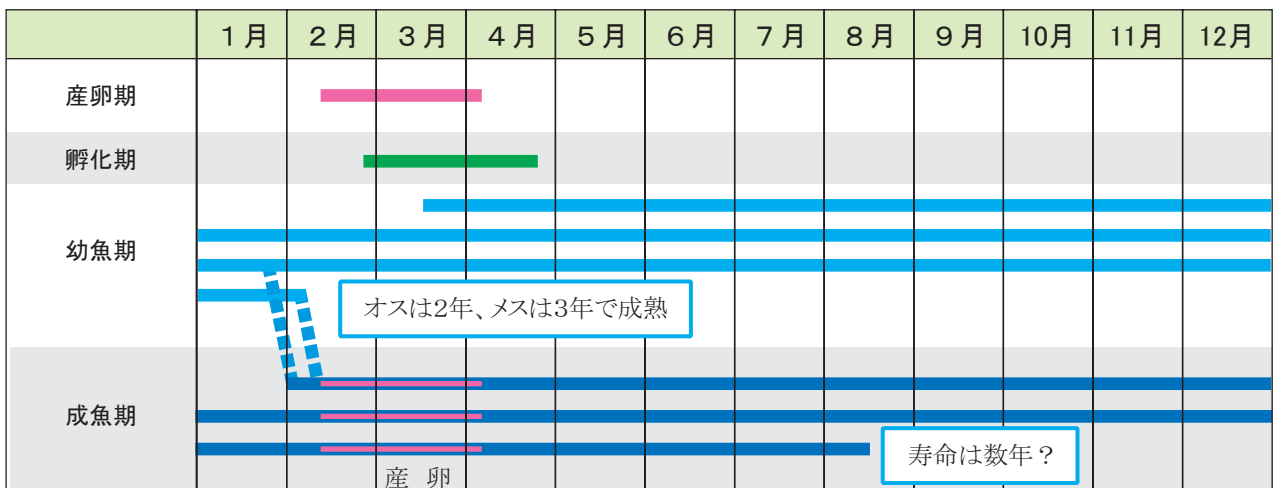
ヌマガレイの眼のない側（右体側）

類似種と見分け方

イシガレイ。

日本のヌマガレイは、他のカレイと違い、目が左側にある。

生活サイクル



魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

一 生

北海道では2～3（4）月に沿岸部で産卵、約半月でふ化、全長3mm前後で眼は両側に分かれている。約7～10mmで眼が左側に移り出す。

沿岸の礫底から泥底に生息し、河川へもよく遡上し、中流域の下部にまで達するという。

オスは2年（約25cm）で、メスは3年（約30cm）で成熟する。6年で49cmぐらいになるという。

寿命は不明（6年以上）。

生息環境・分布

沿岸の浅い海域、川の中・下流域、海とつながった湖沼などに生息する。

分布：北米カリフォルニア州～アラスカ半島、アリューシャン列島、カムチャッカ半島東岸、サハリン、朝鮮半島に分布。

日本では若狭湾以北の日本海側と関東地方以北の太平洋側に分布する。

北海道では全域に生息し、十勝では十勝川や浦幌十勝川等の河口～下流域に生息する。沿岸部でも普通に見られる。



十勝川下流での穴釣り。ヌマガレイも釣れる

食性

カイアシ類、多毛類、ヨコエビ類など。成長につれて貝類、エビ類、魚類などを食べるようになるという。

繁殖生態

北海道では、初冬に川から沿岸の浅いところへ移動し、2～3・4月に産卵する。卵は径約1mm、透明で淡い桃色。水温2.0～5.4℃で約15日でふ化する。

他生物との関わり

イシガレイとの間に自然雑種が比較的良好に生まれるという。

興味深い話

■砂の色によって体色が変わる。

■一般的には「左ヒラメの右カレイ」といわれカレイの眼は右側にあるが、日本産の本種は違っている。カレイ科とヒラメ科との違いは視神経の位置関係にあって、眼の位置が左右どちらであっても、左の視神経が上にある方がカレイ、右の視神経が上にある方がヒラメである。一方、カリフォルニア沖産のヌマガレイの50%、アラスカ沖産の30%が体の右側に目があるという。

■味は水っぽくさほどおいしくないが、刺身や煮付け、フライやバター焼きなどで食される。

■オホーツク海沿岸にある藻琴湖では、ヌマガレイに見られるX細胞種に関する研究が、水産庁北海道区水産研究所で行われた。

■十勝地方のアイヌ語名は不明。美幌などでは「ペトルン・サマンペ」という。

配慮事項

海で産卵するので、川と海、湖沼と海の連絡が必要。

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チヨウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989
「漁業生物図鑑 北のさかなたち」長澤和也・鳥澤雅 編、(株)北日本海洋センター 1991

「図説 魚と貝の大辞典」望月賢二 監修、魚類文化研究会 編、柏書房 1997

「コタン生物記II 野獣・海獣・魚族篇」更科源蔵・更科光、法政大学出版社 1976